

## SRID 途上国アルバム：セネガル・サンルイ紀行

神田道男

ミャンマー日本・エコツーリズム理事

2011年から2012年にかけて、西アフリカのセネガル共和国に2度出かける機会があった。セネガル北部、モーリタニアとの国境をなすセネガル川の下流域の村落給水に関連した調査であったため、セネガル川の河口のサンルイ市に滞在した。サンルイは、ルイ14世にちなむ地名で、アメリカのミズリー州のセントルイスと同じ地名の仏語読みである。1854年から1904年までフランス領西アフリカの首都であった。2000年に世界文化遺産に登録（登録名：Island of Saint-Louis）されている。旧市街は、セネガル川河口の南北に細長い二つの砂洲（島）にある。島に渡るには、飛行場（現在は使われていない）のある本土（グーグルで見るとこれも河口の大きな円形の砂州であるが、現在はほぼ大陸と陸続きになっている）から唯一の入り口である約500mの鉄橋を渡るところから始まる。手前の島に旧政庁やホテルがあり、植民地時代からのこじんまりした市街地がそのまま残っている。さらに小さな橋をわたると漁港（船溜まり）のある商業地区で、魚の水揚げ、保冷車による搬出、魚の燻製、木造船の建造、船外機の修理、雑貨の販売など猥雑で、雑然とした地区である。その先は大西洋で、足元には大波が押し寄せ、沖には、ダカールへ向かう外航船が航行しているのを見ることができる。サンルイの街を中心に、南から北に周辺地域を含めてまとめた

### 砂丘地帯

サンルイは砂州の街であるが、セネガル川河口の南西部は、大規模な海岸砂丘が海岸に並行して複数形成されている、日本の新潟や鳥取などで見られる海岸砂丘の大規模なものである。砂丘と砂丘の間の低地では浅い井戸を掘って灌漑し野菜づくりが行われている。



砂丘地帯の伝統的農業



ドリップ灌漑



砂丘地帯の灌漑農業

## 旧市街

街の入り口の鉄橋は回転橋であり、現在も使用されている。（解説書には鉄道は動いており、回転橋は動かないという記述などもみられるが、実際は逆で、鉄道は使われていないが回転橋は動いている。） 橋を渡るとすぐ右手にホテル・テラ・ポステがある。直訳すれば郵便ホテルだが、「星の王子さま」の著者であるサンテグジュベリが郵便飛行機のパイロットとして飛んでいた 20 世紀のはじめのころパイロットの宿所になっていたことに由来する。左に曲がれば、旧総督府前の広場にでる。観光地であるからともいえるが、自動車と馬車が共存しており、土産物屋やレストランが文化遺産の雰囲気盛り上げている。レストランも内部装飾を工夫しており、チェブジェン（ウォロフ語で、チェブ（飯）、ジェン（魚）の意味。魚と野菜を煮込み、そのスープでお米を炊き込んだもの）とピサップジュースの昼食はなかなかのものである。



回転橋



ホテル・テラ・ポステ



サンルイの街と観光馬車



市内の風景



土産物店



伝統料理チェブジェン

## 商業地区

サンルイは人口は約2万5千人、漁業の中心地であり、また市の南西部の海岸砂丘地帯で栽培される野菜（人参や玉ねぎ）の集散地でもある。商業地区となっている一番海側の砂州では、ざっと見ただけであるが、岸壁のある漁港があるわけではなく、砂州と砂州の間の静穏な海を利用して、木造、船外機付きの漁船が水揚げした魚を、氷を積んだ保冷車に積み込んで内陸部に搬送している。小魚は、海岸で燻製している。近年、海水の遡上を防ぐ河口堰が設けられたことの負の影響が出ないかちょっと心配な砂州である。



サンルイの朝



サンルイの海岸



魚をトラックに積む人々



港町の朝



漁船で作業する人々



造船所

## 下流部の村落

セネガル川は最下流で、二つに分かれ、ひとつは海に向い、サンルイの旧市街のある砂州をつくるが、もうひとつは蛇行しながら内陸に向かい、小さな湖に流れ込んで砂漠に消えていく不思議な川である。この小さな湖は地質構造の影響で、並行する3つの湖に分かれていることから3湖地方と呼ばれている。湖の周辺の乾燥地には牛やヤギの放牧を主体とする村落が散在する。



N村



T村付近の放牧される牛の群



漁をする人々



N村の給水に急ぐ子供達



N村の子供達



N村の女性達